

近衛家に特に関係の深い文書・典籍を除く、一三五箱九万八千点を寄託した⁽³⁾。寄託を受けた京都帝国大学図書館では、その後約七年間（一九三一年）をかけて、同図書館の山鹿誠之助司書官、井川定慶・藤直幹嘱託らが整理を行い、目録（「近衛家寄託文書目録」）を作成した⁽⁴⁾。この目録が現在「一般文書目録」と呼ばれているものである。目録には、史料番号、文書名、頁数が記されており、内容や年代の注記があるものもある。史料番号は一から九八六一八に及ぶ。ただし一つの目録番号に複数の文書がまとめられている場合もあり、総点数はさらに多いと想定される。

一九三八年、近衛文麿は京都市右京区に陽明文庫を設立した。京都帝国大学に寄託されていた史料も多くが近衛家に返還され、現在に至っている⁽⁵⁾。

現在、陽明文庫では「一般文書目録」を、内容別に「第一門 家門 付諸家」「第二門 皇室」「第三門 書状」など二十三の部門に分類し、さらにその中を細項目にわけて運用している⁽⁶⁾。このうち「第三門 書状」については「陽明文庫所蔵一般文書目録「消息」高精細デジタル撮影目録および索引」において撮影目録の紹介を行った⁽⁷⁾。本研究では、「第一門 家門 付諸家」「第七門 仏教」などを中心に調査を進めており、本稿はそのうち「第七門 仏教」（約三千点弱が収められる）に関する目録の一部を紹介するものである。この「第七門 仏教」には、仏事に関する文書、仏事の記録、縁起、法語、名号などが含まれている。本稿で紹介の範囲は、目録番号の前から子番号含め三五四点となる。続く箇所は興福寺関係の史料が続き、まとまった分量があるため、一括して紹介したほうが良いと考え、その手前までとした。なお「一般文書目録」は、膨大な史料を短期間のうちに網羅的に整理した労作であるが、そのため事前に内容や形態ごとの分類を経て作成されたものではない。

おそらく当時の保管秩序により、機械的に目録番号を付したと推測される。その結果、同一の寺院に関する文書であっても番号が連続せず、離れた箇所にも配されていることがある。本稿では目録番号の順に配列し、関係すると推測される寺院名を、表中の「関係寺院」欄に示す形とした。また内容上、直接に仏教に関係しないと思われる史料も含まれている。これらは「その他」として整理した。

では、なぜこれらの寺院に関係する史料が、陽明文庫に残されているのであろうか。この点については、個別に検討を進める必要があると考えられる。

例えば、今回紹介する中で一様院・西王寺・三時智恩寺・円通寺・光照院などは近衛家に所縁のある寺院であり、その関係により文書が伝来したと推測される。また大和栄山寺の文書は、宝永二年（一七〇五）の訴訟に際し、栄山寺より提出されたものであると指摘されている⁽⁸⁾。このように撰閲家として訴訟や運営に関与した際に、提出された文書が多数含まれていると考えられる。さらに寺院側から勧進等を求めるために、縁起や関係文書などが近衛家に届けられること⁽⁹⁾、後述の新長谷寺縁起・大寺縁起のように近衛家の人物が縁起や経典などの作成に関与した例も確認される⁽¹⁰⁾。

次にいくつかの史料を紹介したい。

(一)新長谷寺縁起

まず一つは、吉田山新長谷寺の縁起である（目録番号二三一二〇「新長谷寺縁起写」、同五四三二二「吉田山新長谷寺縁起」）。新長谷寺は、かつて京都市神楽岡西、吉田神社の境内に所在した神宮寺であるが、明治維新期の廃仏毀釈により、現在は真如堂（真正極楽寺）の境内に移されている。

陽明文庫所蔵の縁起によれば、九世紀の藤原山蔭は、かつて父が助け

た亀に命を救われた。父はこれを長谷観音のご加護であると信じ、信仰を深めた。成長した山蔭は、播磨守に任せられ、任国播磨に亀井寺を建立した。ある時、明石浦で霊木が見いだされ、この霊木を祀るにふさわしい場所を祈請したところ、霊木が示したのが吉田の山蔭邸、すなわち今の吉田社の地であったという。そして長谷寺の観音の化身が、この霊木から観音像をつくり、それを撰津総持寺に祀った。吉田にはその観音像を模した像を祀り、これが新長谷寺の起源であるとされる。その後、東三条院（円融院后）が吉田社を再興し、吉田祭は勅祭とされた。さらに藤原道長は自筆の書を卜部兼延に与え、吉田社を平安京における氏社氏寺とすると伝えたとする。吉田社にとって重要な縁起である。

吉田神社神主吉田家の文書は、現在天理大学附属天理図書館の吉田文庫に多数所蔵されている。その中には『新長谷寺縁起』が四本所蔵されており、日沖敦子氏によって紹介されている¹⁾。日沖氏によれば、これらの伝本はA系統（吉田文庫所蔵番号…吉三四一七八、六八、七七）、B系統（同…吉三四一七六）の二系統に分類される。A系統は、元禄八年（一六九五）の吉田兼連（兼敦、一七五三～一七三一）の次の奥書（吉三四一七八）により、成立過程の一端が明らかになる。

右縁起者、左金吾雅豊卿所被書写也、別有一卷者近衛博陸公真跡也、ここからこの縁起が飛鳥井雅豊（兼連母は、雅豊父雅章の養女）によって書かれたことが判明する。一方、この奥書中の「別有一卷者近衛博陸公真跡」については、日沖氏は未詳とされている。一方のB系統は、成立年代は江戸中期ごろと推定されているが、奥書は付されていない。

ところで陽明文庫には、一般文書目録二二二二〇「新長谷寺縁起写」、同五四三八二「吉田山新長谷寺縁起」（今回の紹介範囲外）がある。二二二二〇「新長谷寺縁起写」には「応田満院基熙公御筆写 新長谷寺縁起」とのウハ書があり、奥書は次の通りである。

右新長谷寺縁起一卷左大臣基熙公令書之給、於外題者内大臣家熙公之賢筆也、永年不朽之宝、諸生渴仰之基、何事若之哉、仍忘腐毫之慚、聊記旨趣于卷末畢、

元禄二年八月十八日 左兵衛督卜部兼連

また五四三八二「吉田山新長谷寺縁起」の端裏書には「吉田山新長谷寺縁起／兼連卿所望書遣草案也」と記されている。これらにより、元禄二年（一六八九）に吉田兼連の依頼に応じて、近衛基熙（一六四八～一七二二）。A系統の奥書の元禄八年時点では博陸（関白）が本文を書き、その子の家熙（一六六七～一七三六）が外題を書いた縁起が存在したことが明らかとなる。これらの縁起の本文は、いずれも日沖氏が分類するB系統に属し、吉田文庫の吉三四一七六の縁起と同一である。したがって前述の「別有一卷者近衛博陸公真跡」とは、このB系統（吉三四一七六）の縁起を指すと考えられ、陽明文庫所蔵の五四三八二「吉田山新長谷寺縁起」はその草案、二二二二〇「新長谷寺縁起写」はのちに作成された写本と推測される。本文を比較すると、日沖氏の翻刻の行数で五〇行目～五二行目には菩薩の台詞として「梅檀香木長三尺六寸」と語る箇所がある。この台詞は、陽明文庫所蔵の草案五四三八二では細字で挿入され、「此注如本行書之」と注記されている。またさらに末尾の「靈精驗有守護冥衆愍」のちに「彼孝子、渡海無難到其所云々」という文章がさらに細字で示され、「此細注も本行ノコトク」と注記されている。これらはのちの写本である二二二二〇「新長谷寺縁起写」では本文の一部になっており、草案の指示通りに書かれたことが確認できる。なお天理本では「彼孝子、渡海無難到其所云々」は細字のままである。もう一点、日沖氏の翻刻の行数で一〇六行目には「仏所をはくえらかし」という文章が見える。これは陽明文庫所蔵草案五四三八二では「くえはららかし」とあり、脇に「蹴散」という漢字を示し「クエハラ、カ

シ」という読みと「神書ニアリ」との説明が付されている。のちの写本である二三二〇では「くえはら、かし」と記される。書写のために吉田家で説明を付したのであろうか。その他の主な異同は注に示した⁽¹²⁾。なおこのような異同からは、現在天理大学附属天理図書館に所蔵されている縁起も写本の可能性がある。縁起が作成されるにあたり、依頼者および作成者双方に史料が残され、その成立過程が明らかとなる点、興味深い事例といえよう。

江戸時代初期、吉田家の家運は衰えていた。幼くして家を継いだ兼連は、門人の吉川惟足の援助により家運の復興に努めた⁽¹³⁾。本縁起もそうした再興の一環として作成されたものであろうか。

(二)大寺縁起

同様に一般文書目録五三九六五「大寺縁起」も、縁起の作成に近衛家が関与したことにより、同文庫に伝来したものと推測される。この縁起は堺の開口神社の神宮寺である念仏寺（通称「大寺」）の縁起の写本で、原本は開口神社に伝わっている。開口神社所蔵原本の奥書によれば、元禄三年（一六九〇）「御施主近衛閔白左大臣基熙公」により作成されたものである。原本は、絵を土佐光起が描き、詞書を基熙・家熙をはじめとする二五名の公卿・親王が執筆し、外題は常子内親王（基熙室）の手になる豪華な縁起絵巻である⁽¹⁴⁾。

そしてこの縁起の作成を契機として、近衛家と開口神社との関係が築かれたとされる。江戸時代を通じて交流は続き、鳥居に掲げられた額の「開口神社」という題字は、安政五年（一八五八）に近衛忠熙が揮毫したものである。また目録の五三九六六〜七七は、幕末期に大寺が近衛家の権威を仮り、狼藉をしていると咎められ、釈明をしている文書である。そのやりとりからも両者の関係が窺われる。

(三)丹波円通寺関係文書

次に丹波円通寺関係の文書を紹介する。円通寺は現在の兵庫県丹波市水上町に所在し、足利尊氏の第四子英仲法俊を開山とする寺である。第二代は近衛道嗣の子の牧翁性欽である。戦国時代には、京を追われた近衛前久が一時赤井氏を頼ってこの付近に滞在している。一般文書目録には、英仲法俊・牧翁性欽の年譜・伝記（一般文書目録五三九四六・五三九四七）のほか、天正六年九月日付の明智光秀禁制（五三九四四）など数点の文書も伝わる。

このうち五三九五〇「円通寺の事」は元禄七年（一六九四）六月二八日付で、近衛家と円通寺の由緒を記した書付である。冒頭には

丹波国水上郡井中村永谷山円通寺と申禅寺古跡にて、色々従往古之記録、猶更

近衛様御由緒も有之由承知之旨、池上宝庵・池上平之丞より申趣、早速伊兵衛罷下、三人同道仕、六月廿日彼寺へ参、委細相尋申候処と見える。この元禄七年の調査の時に、一連の円通寺関係記録・文書が献上された可能性がある。

五三九四六「丹州永谷円通英仲禅師・牧翁禅師年譜年譜」は、円通寺文書に同文の年譜がある。しかし円通寺文書の年譜は円通英仲禅師の至徳二年の途中までで後半が失われている。陽明文庫所蔵の年譜により全体が判明する点でも貴重であろう。

また天文二二年（一五五三）六月一日付「丹波国円通寺宛家一判物」（五三九四五）は、現在の円通寺文書には見えず、新出の史料とみられる。次に翻刻を掲げる。

水上郡円通寺之事、為御祈願所上者、代々任御判之旨、不可有別儀候、并忠家・時家令遵行上者、聊不可有相違者也、仍状如件、

天文廿二

六月十一日

家一判

あまり古ひ候ま、わけ見へかね申候、

文末に「あまり古ひ候ま、わけ見へかね申候」と注記されていることから、写された当時（元禄年中カ）すでに原本が古びて判読困難だったようで、正確な写であるか否かは不分明である。室町時代の丹波国は細川京兆家の領国であり、天文二二年ごろには、細川晴元と三好長慶の対立によって、戦乱状況が続いていた。¹⁵⁾文中に見える忠家・時家は付近の有力国人で、晴元方についた赤井氏の人物と推測される。この文書は円通寺を御祈願所として安堵する内容であり、差出の「家」の正体は不明だが、細川晴元方に属する人物であろうか。今後検討を深めていきたい。

以上のように、さまざまな契機によって作成・伝来した多様な史料が確認できる点は、陽明文庫所蔵史料の特色の一つである。調査はまだ途上であり、ごく一部の紹介にとどまるが、広くご教示を賜ることができれば幸いである。

末尾ながら、本調査をお許しくださっている名和修文庫長、名和知彦事務長に感謝申し上げます。

注

- (1) 渋谷綾子・天野真志編『古文書の科学』文学通信、二〇二三年。
- (2) 科学研究費補助金（学術創成研究費）「目録学の構築と古典学の再生―天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明―」（研究代表者 尾上公、二〇〇七年～二〇一一年度）、科学研究費補助金（基盤研究(S)）「日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充―天皇家・公家文庫を中心に―」（研究代表者 尾上公、二〇一二年～二〇一六年度）、科学研究費補助金（基盤研究(S)）「天皇家・公家文庫収蔵史料の高度利用化と日本目録学の進展―知の体系の構造伝来の解明―」（研究代表者 尾上公、二〇一七年～二〇二二年度）、科学研究費補助金（基盤研究(A)）「撰関家

伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究」（研究代表者 尾上陽介、二〇一七年～二〇二二年度）、科学研究費補助金（基盤研究(B)）「撰関家伝来大規模史料群の目録精緻化による構造の解明と研究資源化」（研究代表者 尾上陽介、二〇二三年～二〇二七年度）など。

- (3) これ以前、明治三三年六月に、当時設立したばかりの京都帝国大学附属図書館に典籍一二一九部一〇〇二九冊、大正五年七月に典籍七六九部一〇六〇六冊が寄託されている（『財団法人陽明文庫要覧』）。
- (4) 京都大学附属図書館編・刊『京都大学附属図書館六十年史』第三章第三節「近衛文庫」、一九六一年。
- (5) 明治・大正期に別途寄託されていた典籍のうち二一九部三一五〇冊は寄贈され、現在京都大学附属図書館「近衛文庫」となっている。
- (6) 名和修「陽明文庫の沿革」田島公編『近衛家名宝からたどる宮廷文化史』笠間書院、二〇一六年。
- (7) 遠藤珠紀・尾上陽介・藤井讓治「陽明文庫所蔵一般文書目録「消息」高精細デジタル撮影目録および索引」尾上陽介編『禁裏・公家文庫研究』九、思文閣出版、二〇二三年。
- (8) 尾上陽介・下村周太郎「陽明文庫所蔵栄山寺文書について」『文書群復元と歴史的景観復元の融合による栄山寺および栄山寺領の総合的研究』（二〇二〇年～二〇二三年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書、研究代表者 下村周太郎）二〇二四年。
- (9) 例えば尾上陽介「御写物」『陽明文庫講座図録』五、二〇二三年参照。
- (10) 『大寺さん』堺市博物館、二〇一六年。
- (11) 日沖敦子「天理大学附属天理図書館蔵『新長谷寺縁起』」『名古屋市立大学大学院人間文化研究所人間文化研究』七、二〇〇七年。
- (12) 漢字であるか仮名であるか、などに若干の異同が見られる。そのほか意味に関わる異同を次に掲げる。なお行替わりも三本ともほぼ同一であるため、日沖氏の翻刻の行数で示す。
二五行目「日沖氏翻刻「忍を知り」↓陽明本両本「恩を知り」。
二七行目「即得涉所」↓「即得浅所」。
五四行目「やうやく」↓「やう、ゝ」。

五七行目「西に下り」↓「国に下り」。

一二七行目「案座し」↓「安置し」。

(13) 井上智勝『吉田神道の四百年』講談社、二〇一三年。

(14) 『大寺さん』堺市博物館、二〇一六年。

(15) 馬部隆弘『戦国期細川権力の研究』吉川弘文館、二〇一八年など参照。

【付記】 本稿は、二〇二二年度・二〇二三年度史料編纂所共同利用・共同研究拠点一般共同研究「未撮影史料を中心とする陽明文庫の調査・研究」、二〇二四年度・二〇二五年度同「陽明文庫所蔵「一般文書目録」史料の調査・研究」の成果の一部である。

目録番号	関連寺院	史料名	頁数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
12350	一様院	一様庵規則	1巻	享保4年9月14日	家熙公	従一位家熙／妓論	双鉤本（朱字）。一様院文書に原本あり。 23103・104参照
12351	丹波円通寺	丹波国円通寺由緒略記	1通	(近世)	—	丹波国円通寺由緒略記／有観室妙音大師位牌	外題「丹波国水上郡永谷山円通寺由緒略記」。中世以来の近衛家との由緒を記す
12352	丹波円通寺	円通寺全景之図	1枚	(近世)	—	—	彩色図
12353	丹波円通寺	寺籍明細	1冊	明治31年5月	円通寺住職原宣明（印） 近衛公爵殿下	丹波国水上郡幸世村／之ヲ保管セシム	丹波国水上郡円通寺の明細書
12354	下野円通寺	覚書	1通	—	—	下野益子／引導ハ円雪（五十余）	書付。下野益子大澤円通寺に関するもの
12355	栄山寺	栄山寺願書草案	1通	元禄16年11月	栄山寺年預坊金剛院／（合点）普賢院／福寿院／（合点）不動院／（合点）歓喜天院 天龍大比丘様	乍懼書付を以御願／護持院様御末寺之儀偏奉頼候 已上	護持院大僧正様の末寺となることを願う。 『文書群復元と歴史的景観復元の融合による栄山寺および栄山寺領の総合的研究』（以下「栄山寺」）参照。史料編纂所架蔵写真帳 6171.65-30
12356	栄山寺	和州栄山寺文書之写	1通	永承5年	—	—	未見。『栄山寺』参照
12357	栄山寺	栄山寺旧記目録	1通	永暦元年	—	—	未見。『栄山寺』参照
12358	栄山寺	東北院家政所下文写	1通	寛正・文明	—	—	未見
12359	東福寺	東福寺海蔵院鎮守毘沙門天王縁起	1通	—	—	東福寺海蔵院鎮守毘沙門天王縁起 当院は近衛関白基嗣公の草創／疑念を生ずることなかれ	刷物
12360	興福寺	興福寺々務之事	1通	(近世前期)	—	興福寺別当光長披露分／無品尊覚親王	包紙あり。ウハ書「光長卿南曹之時之披露之分興福寺之寺務之事」。題「興福寺別当／光長卿披露分」。元和2年5月27日の修南院権僧正光助ほか3件を書上げる

12373	龍翔寺	金地院願書写	1冊	文化元年7月	寺社奉行	— / —	龍翔寺一件（大徳寺常楽庵兼帯龍翔寺住持職の繪旨につき金地院が支障があると訴えた件）につき
12372	龍翔寺	返答書	1冊	文化2年7月	大徳寺役者常楽庵 寺社御奉行所	— / —	龍翔寺一件（大徳寺常楽庵兼帯龍翔寺住持職の繪旨につき金地院が支障があると訴えた件）につき
12371	方広寺	洛陽大仏鐘銘	1冊	慶長19年	—	洛陽大仏鐘之銘 / 清韓謹書	方広寺鐘銘。近世中期以降の写しか。蔵書印あり
12370	大徳寺	大徳寺に賜はる論書写	1通	建武4年8月26日	興禪大灯国師	大徳禪寺者 / 勿敢違失矣	花園天皇宸翰御置文。近世の写しか。大徳寺文書に正文あり
12369	大慈寺	進藤長義日記抜萃	1通	文久2年7月4日	—	一薩州領日州志布志大慈寺、此度妙心寺再住上京に付 / 可有参殿之旨文過有之云々	文久2年7月4日条。日向志布志大慈寺と近衛信尹の由緒の記事を抜粹
12368	志明院	山城葛野郡岩屋山志明院鐘銘	1通	元和7年	—	— / —	「前住東福剛外叟令柔誌焉」。『扶桑鐘銘集』にあり
12367	西王寺	西王寺経蔵記	1冊	享保13年3月	—	経蔵記 / 宋宝 / 自称心円満院沙弥証獄	「具山客隱富逸記」
12366	実相院	金乘院尊全南松院室返上書写	1通	文化10年閏11月26日	金乘院尊全 実相院御門跡坊官中	— / —	包紙あり。ウハ書「金乘院分差出候写」。力者一件につき一山大衆不的伏、南松院を返上する
12365	高野山	亮深様御願書	1通	(近世後期)	—	— / —	高野山金剛峯寺再建を願ひ、先例・由緒を記す
12364	興福寺	草案	1通	享保9年2月	—	口上竟 / 以上	両御門主ヨリ再興御願書。享保2年興福寺焼失。公武に勸化を願う
12363	興福寺	興福寺縁起草案	1冊	(近世、近衛家廐)	—	興福寺縁起 / 中天笠摩 / —	本奥書「天正十八曆庚寅年六月廿八日草集終 / 寺務一乘院殿進上之」。奥書「仙洞御本令書写了（近衛家廐花押）。元文2年の写本が興福寺にあり
12362	興福寺	興福寺諸堂本尊之記	1冊	(享保2年2月日)	—	興福寺伽藍安置之諸尊今度焼失并相残尊像之録 / —	「右諸堂本尊并諸尊失墮無之」
12361	興福寺	興福寺回祿記	1冊	(享保9年)	—	— / —	綴じ順が逆転。奥書にあたる部分に朱書にて「以寺務宮本書写了 / 享保甲辰九月朔」とあり

目録番号	関連寺院	史料名	頁数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
12374	龍翔寺	願書写願書写	2通	(近世)	— —	— —	龍翔寺一件(大徳寺常楽庵兼帯龍翔寺住持職の繪旨につき金地院が支障があると訴えた件)につき
12374-1	龍翔寺	大徳寺役者大徹宗斗・同独庵宗讓・住山大順宗慎願書	1通	文化2年9月15日	大徳寺役者大徹宗斗・同独庵宗讓・住山大順宗慎 金地僧録大和尚	覚去ル享和二戌年／被下候様奉願候以上	
12374-2	龍翔寺	大徳寺役者大徹宗斗 覚	1通	文化2年9月15日	大徳寺役者大徹宗斗 金地院役者禪師	覚去ル戌年龍翔寺／被下候様仕度奉存候以上	
12374-3	龍翔寺	大徳寺役者常楽庵・金地院役者広叔・松月軒願書	1通	文化2年11月	大徳寺役者常楽庵・金地院役者広叔・松月軒 寺社御奉行所	— —	
12375	龍翔寺	言上書写	1冊	(近世)	— —	— —	龍翔寺一件(大徳寺常楽庵兼帯龍翔寺住持職の繪旨につき金地院が支障があると訴えた件)につき
12375-1	龍翔寺	大徳寺言上	1通	文化3年3月	大徳寺 伝奏執事	謹言上／文化元年七月／入御覽此段奉申上候以上	
12375-2	龍翔寺	黄梅院宗彦他9名言上書	1通	文化3年7月	黄梅院宗彦他9名 伝奏執事	去ル享和二寺門／寺門相統仕候様偏二奉願上候以上	
12375-3	龍翔寺	讃州寺大順言上書	1通	文化3年8月	讃州寺大順 伝奏執事	謹言上／去ル享和二為年龍翔寺／御沙汰奉願上候以上	
12375-4	龍翔寺	大徳寺言上書	1通	文化3年8月24日	大徳寺 伝奏執事	謹言上／先達而龍翔寺住持職／御沙汰度／偏奉願上候以上	
12376	龍翔寺	返答書	1冊	5月	大徳寺 伝■執事	— —	龍翔寺一件(大徳寺常楽庵兼帯龍翔寺住持職の繪旨につき金地院が支障があると訴えた件)につき
12377	東寺	東寺寄附帳	1冊	辰7月	— —	東寺寄附物／右之通無相違者也	金額と、撰家・宮家以下の寄付者名のみを書き上げる
12378	東大寺	願書	1通	慶応3年6月	東大寺大勸進職 近衛御殿諸大夫中	謹而奉願口上覚／奉存候以上	包紙あり。ウハ書「謹而奉願口上覚」東大寺大勸進職「龍松院」。東大寺より修復を願う

12387	興福寺	南都西門有差別事	1冊	(近世)				親長卿記等より引用あり
12386	興福寺	南都伽藍屋根板の事	1通				切紙。全文「南都伽藍屋根板此板者／ほそ殿と申処之屋根板二而／凡千百余年二も相成候様ニ承り申候」	
12385	法蔵寺	願書	1通	享保20年3月	御奉行様		近衛家旧殿一ヶ所寄附につき、絵図面あり	
12384	法隆寺	和州法隆寺水宣旨之記	1冊	(近世写本)			図あり	
12383	平等院	平等院沿革略記	1冊	(近代)			7月29日平等院管理浄土院住職大門了康の奥書あり。罫紙	
12382	平等院	源三位頼政卿御影前献備請書	1通	明治11年4月18日	住職法誉(印) 近衛家御内／御山豊殿			
12381-2	平等院	平等院浄土宗観誉并大衆等願書写		享保5子年3月	御奉行所 久世郡第一区宇治／浄土院			
12381-1	平等院	平等院浄土宗観誉并大衆等願書写		子(享保5年)3月	御奉行所 平等院浄土宗方丈／住持観誉／大衆等			
12381	平等院	平等院浄土宗観誉并大衆等願書写	1通	①子(享保5年)3月／②享保5子年3月	①平等院浄土宗方丈／住持観誉／大衆等／②平等院浄土宗方丈／住持観誉／同塔頭／養林庵(ほか7寺庵) ①御奉行所／②御奉行所		包紙あり。ウハ書「上 平等院浄土宗観誉／写二通ヲ一紙ニ仕候」。浄土宗側より天台宗を訴える内容で2点を写す。平等天台浄土両宗支配ノ訳相立ノ願書、①は1点目の願書、②は2点目の願書の情報	
12380	東本願寺	東照宮御別殿一件書	1冊	文久2年11月			叡山文庫別当代文書目録訴訟86に同一タイトルあり	
12379	東本願寺	東本願寺神君別殿造営一条内話書	1通	文久2年11月			山門千手院某記。金掛り摂州南溪寺と面会した際の応答を記す。叡山文庫生源寺文書目録訴訟63に同一タイトルあり	

目録番号	関連寺院	史料名	頁数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
12388	興福寺	南都闘乱根元事	1冊	(近世カ)		南都闘乱根元之事／ 	虫損甚大。推敲の痕跡多数あり。頭書のうちに朱書で「裏書云」と記す。天理大学附属天理図書館保井芳太郎氏文書と同文。裏書はなし
12389	妙心寺	妙心寺中海福院書付	1冊	(近世)		— 	僧堂建立に付請うもの。包紙あり。ウハ書「妙心寺中海福院分上ル／書付」。冊子末尾に「正法山下末種斯經慧梁謹誌」とあり。貞和3年7月22日の花園法皇の宸翰を引用する
12390	その他	寺社群書欠本目録	1通	明治26年11月		明治廿六年十一月裏張／右	裏張付
12391	宝山寺	不空絹索観自在菩薩略縁起	1冊	享保15年7月	和苧生馬宝山寺太円 常陸坊様玉井坊様	不空絹索観自在菩薩略縁起／ひろく演説し給ふなり	「宝山寺大円記之」
12392	五个荘	勧進状	1巻	寛永2年5月日	沙門某	勧進沙門某敬白請持豪貴賤仍勧進旨趣如件	「再興山城州大和田庄地藏堂成就二世求願之状」。金銀箔散らし装飾料紙
12393-1	西方寺	勧進状	1通		小僧高岸	夫惟まれは仏出生／からんや小僧高岸敬白	阿弥陀堂再建。木版、弥陀次郎が三尊を網に懸けて引き上げた。12393-2と同
12393-2	西方寺	勧進状	1通		小僧高岸	夫惟まれは仏出生／からんや小僧高岸敬白	木版、12393-1と同
12394	その他	略宗派図	1枚			略宗派図 五祖法演臨濟十世／嵩岩師沆	略宗派図は五祖法演から月庵善果まで
23064	東本願寺	本願寺代々	1冊	(近世中期)		本願寺代々 元祖／享保十七年二月廿八日得度	23064・23065紙紐一括、東本願寺。元祖親鸞より17世光性男光乘玄如（近衛家久猶子）まで。末尾に朱書にて「元文五十大僧正」とあり
23065	法華寺	法華寺以下諸寺石高覚書	1通	(近世前期カ)		高式百式拾石／法華寺殿／高四百八拾壹石四斗一升／十三ヶ寺／極楽院（以下寺院名）／都合千八百八拾壹石四斗壹升	23064と一括されるが関係のない史料
23066	法華寺	法華滅罪寺縁起	1巻	(近世中期写カ)		原夫いまこの伽藍／嘉元二年十月廿九日於北京円興寺注之畢偏為興法利生之也 当寺開山比丘尼円鏡（生年六十四／冊一夏）	法華寺にあり（重文）。東大寺日記、七大寺巡礼記、奈良日記、奈良記を引用。「法華寺このたび興行の次第事」

23077-1	その他	桜御所・立売繪目録	1通	(近世前期か)		桜御所の繪とも目録／以狀繪共十三也	包紙あり。「桜御所并立売等の繪とも目録ナリ并半兵衛へ預かき目録ニツ」。①題「桜御所の繪とも目録」「立売之繪共目録」、②「桜御所庭之繪とも筈なしに繪ばかり半兵衛へ預し物」
23077-2	その他	録 桜御所庭之繪とも目録	1通	—		桜御書庭之繪とも／一ね問ざる戸のかき	
23078	その他	茶道具目録	1冊	(近世前期か)		御茶入 一唐丸壺／一茶碗台二「くろきあかき」	注記に「正保四年五月九日ニ右府様ニ被進之」とあり。全体的に優品で網羅的なものか。茶入・水指・掛物・茶碗・水こぼし・花入・香炉・香箱・釜・盆・茶杓・小道具
23079	その他	書院の二階数寄屋之勝手の下へ取たる道具之覚	1通	(近世前期か)		下へ遣道具／一舟のちきろう	
23080	その他	御門屋倉并立売下屋ニ御座候御道具之覚	1冊	慶安2年11月3日		立売ニ階ニ有道具／一壺丁 同御つ、ミこし	材木等
23081	その他	にかい之御道具之帳	1冊	慶安2年11月27日		一ほしいちやわん 九ツ／但不足有	茶碗等
23082	その他	御清所御道具・御台所之道具・あやかへ屋道具	1冊	慶安2年11月28日		一つるなべ 八ツ／一長えノちやうし 壺 ついで	鍋等
23083	その他	御次道具之帳	1冊	慶安2年11月28日		一なつめ ニツ／一ひかき 壺ツ	
23084	五个荘	山城大和田庄地藏堂勧進帳	1枚	(近世中期写か)			後欠。大和田は京都府宇治市に所在の近衛家領
23085	五个荘	請取申大和田御作事之覚	1通	7月26日			23085・23086包紙一括。ウハ書「おわた御ふしんのうけ取」
23086	五个荘	大工長三郎銀子請取状	1通	丑9月4日(慶安2年か)			題「請取申銀子之事」
23087	五个荘	大和田御殿造作遣日記	1通	(慶安2年)			23087～23100包紙一括。一括包紙①問取図。一括包紙②モト入札包紙。大工長兵衛に遣す銀の記事2件のみ

目録番号	関連寺院	史料名	員数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
23099	五个荘	大和田御殿廻島之覚	1通	申7月27日	甚兵衛	大和田御殿廻島之覚／歩合百拾歩七りん	
23098	五个荘	御疊之入札（大和田御殿造営関係）	1通	12月8日	ふしミ 畳屋七右衛門（花押） 森平右衛門	御疊之入札／何時にても仕かへ可申候以上	一括包紙②はモトは本文書のものか
23097	五个荘	御疊之入札（大和田御殿造営関係）	1通	寛永19年12月7日	久三郎（花押） 森平右衛門	御疊之入札／あけ箇申候以上	包紙あり。ウハ書「御疊之入札 □久三郎」
23096	五个荘	大和田下蔵御道具覚	1通	未8月13日	加平次（花押）	大和田下蔵御道具覚／右之外ニ一ふるかわら御座候	
23095	五个荘	石之覚（大和田御殿造営関係か）	1通	（近世）	福井源右衛門	石之覚／合式拾八本	糊はなれ
23094	五个荘	足材木入用銀等書上（大和田御殿関係か）	1冊	慶安2年5月18日	大工五左衛門（印） 福井源右衛門	たし材木之覚／総高合式貫六百三拾式又九分	表紙白紙
23093	五个荘	材木入用・有之覚（大和田御殿関係か）	1通	（近世）		上ハ材木入用之覚 下ハ古材木有之覚／大形右之通ニて御座候	題「上ハ材木入用之覚 下ハ古材木有之覚」
23092	五个荘	御書院表替之注文（大和田御殿関係か）	1通	（近世）		御書院表替之注文／合式百七拾八匁	
23091	五个荘	中村五郎兵衛銀子請取状（大和田御殿井ノ本石積手問賃）	1通	丑7月晦日（慶安2年か）	中村五郎兵衛（花押） 室津主膳正殿	請取申銀子之事／請取申候也	
23090	五个荘	大和田之御居問御蔵之注文	1通	6月8日	長三郎	／／	
23089	五个荘	山ノ木切候覚（大和田御殿造作関係か）	1通	6月24日		／／	木数合八十八本
23088	五个荘	入日記（大和田御殿造作関係か）	1通	（慶安元年・2年）		／／	

23100	五ヶ荘	畑寺村家数書上	1通	(近世)	左中弁在判 東北院得業御房	畑寺村家数十二間／右四人ハかしくやうく不仕候	
23101	東北院	藤氏長者宣写	1通	応安5年6月17日		大和国長田庄事／宜所候也仍執達如件	端裏貼紙「後円融院様御諭旨写」。原本は「東北院文書」にあり
23102	東北院か	正親町天皇諭旨写	1通	天正3年9月10日			未見。東北院宛の諭旨か（東北院文書にあり）
23103	一様院	薬師山差図	1枚	(年月日欠)			
23104	一様院	薬師山什宝目録	1通	(年月日欠)		予楽院殿御筆一壁書 一卷／一	包紙あり、ウハ書「薬師山什宝目録」。予楽院殿御筆壁書1巻以下の什宝を書上
23105	大徳寺	大徳寺絵図	1枚	天保12年10月		／	未見
23106	大徳寺	大徳寺役者某口上覚写	1通	年月日	大徳寺役者某御奉行所	奉願口上之覚／一西京安井保村龍翔寺者後宇多院勅願所二而／難有奉存候以上	
23107	宝幢院	嵯峨院家之事	1通	(近世)	全文「宝幢院從禪円僧正至于良淳権僧正十一代從正和頃寛永頃迄相統」	／	宝幢院につき。包紙あり。ウハ書「嵯峨院家之事」
23108-1	東大寺	東大寺三蔵宝器図抜写	1枚			／	23108、23109封筒一括。ウハ書「東大寺三蔵宝器図抜写 図書写」。笏・如意・払子図
23108-2	東大寺	東大寺三蔵宝器図抜写	1枚			／	23108、23109封筒一括。ウハ書「東大寺三蔵宝器図抜写 図書写」。笏・笛・払子図
23109	東大寺	東大寺三蔵宝器図抜写覚書	1枚			覚／一当秋伯耆守上京之節仰進られ候傍・払子。如意図のごとく仰付られやうく出来候ま、／	
23110	西王寺	西王寺絵図	1枚	(文久4年正月)		／	包紙あり。ウハ書「西王寺絵図 出入大工定八分上ル 文久四子正月改」

目録番号	関連寺院	史料名	頁数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
23111	西王寺	西王寺寺地届書控	1通	明治5年8月	西王寺(印) 京都府御庁	右地所之義者／当寺所持ニ相違無御座候	23111・23112 紙綴一拵 付札に「西王寺書類」とあり。奥印・戸長竹沢藤兵衛・村古長管忠治良(但し印はなし)
23112	西王寺	西王寺典籍覚書	1通	明治6年1月	西王寺	覚蟹江中島両処御掛／右表題数如是御座候	
23113	西王寺	西王寺作事勘定書綴	1綴	(弘化4年)	—	—	紙綴りあり。付札「丁未八月西王寺人用□□」。暁師宇兵衛勘定書等5点を合綴する
23114	西王寺	西王寺作事勘定書綴	1綴	(弘化4年)	—	—	奥田伊織諸人用覚書等10点を合綴
23115	西方寺	西方寺諸道具之帳	1冊	正保2年9月7日	森平右衛門(印)・中村五郎兵衛(印)・岡や喜右衛門(印)	—	包紙あり。包紙は反故紙を利用。9月23日付森平右衛門書状(西方寺道具帳指上二付)
23116	西方寺	岡屋西方寺常住物帳	1冊	慶安2年6月21日	—	一御本尊三仏／物数合七拾八色	23116・23117 紙紐一拵 付箋剥離。外題「岡屋西方寺常住物 跡書也」
23117	西方寺	岡屋西方寺常住物帳	1冊	慶安2年6月21日	—	一御本尊三仏／物数合七拾八色	包紙あり。反故紙。モト包紙か。「西方寺帳」とあり。外題「岡屋西方寺常住物 跡書也」
23118	西方寺	回残代寄進道具之次第	1冊	慶安4年6月19日	岡や西方寺	外御建立之住物／一はい一本	包紙あり。「西方寺道具之帳岡喜左衛門進藤筑後守様」などあり
23119	西方寺	不断光院へ御時済米之事	1通	(近世前期か)	—	不断光院へ御時済米之事／三日 中和門院様 上田彦升／盆領 九斗納	包紙あり。ウハ書「応円(濡脱)院基熙公御筆写 新長谷寺縁起」。奥書「石新長谷寺縁起 一卷左大臣基熙公令書之給、於外題者内大臣家熙公之賢筆也、永年不朽之宝諸生渴仰之基何事若之哉、仍忘腐毫之慚、聊記旨趣于卷末畢。元禄二年八月十八日 左兵衛督卜部兼連」。山城国吉田山新長谷寺。天理大学附属天理図書館吉34-76とほぼ同文。縦384 纏
23120	新長谷寺	新長谷寺縁起写	1巻	元禄2年8月18日	—	—	

23121	総持院	総持院住職願書	1通	明治21年6月2日	総持院住職石川明道（印） 近衛様御内御山豊殿	口上書 其後は／右御願用のみ早々めて度 かしく	包紙あり
23122	三時智恩寺	三時智恩寺三上武心 法藏寺講金預込調書 扣	1冊	（慶應元）明治4 年	――	――	――
23123	平等院	鳳凰堂修復勸化願二 付平等院願書案	1通	――	――	一鳳凰堂修復勸化願之儀／御取立之儀奉願 度奉存候事御座候	――
23124	南禅寺	南禅寺山門慶讃法語	1冊	（寛永5年）	――	――	寛永5年建立の南禅寺山門に関するもの
23125	誓願寺	誓願寺本尊千年忌願 業記録之写	1通	寛文4年9月15日	――	――	23125～23028 紙紐一括
23126	誓願寺	誓願寺建立勸進状写	1通	――	楚仙上人	――	奥書「本云右之筆者三條西殿被遊候 也」。誓願寺に原本あり
23127	誓願寺	誓願寺縁起	1通	――	――	――	――
23128	誓願寺	誓願寺縁起官本ノ奥 書写・慶長二年誓願 寺供養導師等書付写	1通	（近世）	――	――	官本奥書は文安元年九月十六日（東山御文 庫取蔵本にあり）
23129		御堂殿御記等写	1冊	――	――	――	未見
23130	泉涌寺	泉涌寺惣門再建中参 詣道二付口上覚	1通	2月23日	――	口上覚 従昨廿二日泉涌寺惣門／右之通寺 門より申来候	――
23131	宇治広野 村地蔵	広野村地蔵尊略由来	1通	――	――	――	――
23132	西本願寺	武家伝奏執奏寺門書 上	1通	――	――	寺社執 奏 西本願寺／右当時武家伝 奏 二付執 奏也	包紙あり。「武家伝奏執奏寺門」。近代紙紐 「二二六五」
23133	その他	仏祖正伝宗派	1枚	――	――	仏祖正伝宗派／――	咲嶺宗訃（大徳寺大仙派）まで僧の名を列 記する

目録番号	関連寺院	史料名	員数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
53910	三時知恩寺	入江殿所望控	1通	享保16年8月2日	—	—	未見
53909	一樣院	本寿院大姉祠堂金請取書	1通	明治24年4月22日	王井	—	未見
53908	一樣院	御尊牌ノ儀二付一樣庵住職願書	1通	明治9年10月	京都府権知事	—	未見
53907	一樣院	一樣庵頭自籍明細帳 御当家御息女紀州大納言室観如院侍女僧籍ノ儀二付御当家役所通知状写	1通	(近世)	—	—	未見
53906	一樣院	一樣庵頭自籍明細帳 御当家御息女紀州大納言室観如院侍女僧籍ノ儀二付御当家役所通知状写	1冊	(近世)	—	—	未見
53905	一樣院	一樣■規約三ヶ条	1通	(近世)	—	—	未見
53904	一樣院	洛北一樣庵仏殿方文庫司等落成示衆小參	1通	享保7年4月	—	—	未見
53903	一樣院	愛宕郡白毫山一樣庵薬師堂造立勸進帳	1帖	享保4年10月	—	—	未見
23136	その他	無上法院糊作釈尊像由来写	1通	享保3年8月26日	従一位藤原家熙	先妣公主無上法院傾心仏乘平生自ノ之冥福及冀尊世間同登覺路	陽明文庫罫紙（近代）に記す
23135	東北院	東北院勸進状	1卷	—	勸進沙弥敬白	夫洛陽一条の南京極の東東北院ノ勸進の旨趣かくのことし	端裏貼紙「後陽成院様勅書御縁起写 御教書大学（寺宮様）」
23134	東大寺	東大寺大会諸兄公勅使行列絵	1卷	—	—	—	「執金剛神縁起絵巻」の一部（藤原重雄氏の御教示による）。白描、詞書は省略されている

53932	栄山寺	後小松上皇院宣写	1通	応永27年8月28日				未見。『栄山寺』参照
53931	栄山寺	寛和天元解写	1通	寛和3年2月19日・天元5年5月11日			未見。『栄山寺』参照	
53930	栄山寺	栄山寺絵図	1枚	—			未見。『栄山寺』参照	
53929	栄山寺	栄山寺文書目録	1通	(宝永2年7月20日)			未見。『栄山寺』参照	
53924	栄山寺	保元三年官符写	1通	保元3年8月7日			未見。『栄山寺』参照	
53923	栄山寺	武智麿公略譜	1通	保元3年			写。未見。『栄山寺』参照	
53917	石動山	能登在動山卷数之事	1通	—			未見	
53916	石動山	能州石動山之事	1卷	元和9年9月			未見	
53915	石山寺	御室前御使成多喜龍哲口上書	1通	(近世)			未見。石山寺観音開帳供養願	
53914	寺 三時知恩	御道具之ひかへ	1冊	(近世)			未見	
53913	寺 三時知恩	御呉服ともひかへ	1冊	寛永7年8月29日			未見	
53912	寺 三時知恩	入江様御道具之覚書 籍覚御経ノ目録等	8枚	(近世)			未見	
53911	寺 三時知恩	尼寺入江殿院号	1通	(近世)			未見	

目録番号	関連寺院	史料名	頁数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
53939-6	栄山寺	宿院司内蔵永俊請文	1通	康和2年2月15日	宿院内蔵	請解 中栄山寺官省符田事／以解	
53939-5	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	長和2年9月10日	栄山寺 当国〈衙〉	栄山寺謹牒 当国〈衙〉／一一	
53939-4	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	寛弘6年12月20日	栄山寺 当国〈衙〉	栄山寺謹牒 当国〈衙〉／一一	
53939-3	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	寛弘3年9月21日	栄山寺 当国〈衙〉	栄山寺謹牒 当国〈衙〉／一一	
53939-2	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	正暦5年9月9日	栄山寺 当国〈衙〉	栄山寺謹牒 当国〈衙〉／一一	
53939-1	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	永祚2年11月21日	栄山寺 当国〈衙〉	栄山寺謹牒 当国〈衙〉／謹以牒	
53939	栄山寺	栄山寺文書写	1卷	—	—	—	（端書）「官符代々国判（二卷之内）」。全13紙。「栄山寺」参照。史料編纂所架蔵写真帳 617L65-30
53938	栄山寺	和州栄山寺武智磨真影懸物ノ絵屏風縁図	1枚	—	—	—	未見。「栄山寺」参照
53937	栄山寺	口上書其他	1通	宝永2年7月20日	栄山寺法印等連署	—	未見。「栄山寺」参照
53936	栄山寺	口上書其他	1通	宝永2年7月20日	栄山寺法印等連署	—	未見。「栄山寺」参照
53935	栄山寺	口上書其他	1通	宝永2年7月20日	栄山寺法印等連署	—	未見。「栄山寺」参照
53934	栄山寺	総法務令旨	1通	慶安3年10月18日	歓喜天院法印玄公羽	—	未見。「栄山寺」参照
53933	栄山寺	後小松上皇院宣写	1通	応永27年8月28日	—	—	未見。「栄山寺」参照

53939-7	栄山寺	興福寺政所下文	1通	保延元年9月15日	政所 栄山寺所司等	政所下 栄山寺所司等／一一	
53939-8	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	康平2年3月25日	「」 当国衙	「」当国衙／一一	
53940	栄山寺	栄山寺文書写	1卷	—	— —	— —	紙。(外題)「官符代々国判(式卷之内)」。 紙。「栄山寺」参照。写真帳 6171.65-30 17
53940-1	栄山寺	興福寺政所下文	1通	承暦3年7月16日	興福寺政所 栄山寺所司田堵等	興福寺政所下 栄山寺所司田堵等／故下	
53940-2	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	天喜2年月日	栄山寺	栄山寺謹牒／謹牒	
53940-3	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	永承元年11月28日	栄山寺 当国(衙)	栄山寺謹牒 当国(衙)／謹牒	
53940-4	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	長久2年12月日	栄山寺 当国(衙)	栄山寺謹牒 当国(衙)／一一	
53940-5	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	長元2年9月28日	当国(衙) 栄山寺	栄山寺謹牒 当国(衙)／一一	
53940-6	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	万寿2年11月5日	栄山寺 当国(衙)	栄山寺謹牒 当国(衙)／一一	
53940-7	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	治安元年9月27日	当国(衙) 栄山寺	栄山寺謹牒 当国(衙)／謹牒	
53940-8	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	寛仁元年9月25日	当国(衙) 栄山寺	栄山寺謹牒 当国(衙)／謹牒	
53940-9	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	寛弘6年10月20日	□□寺 当国(衙)	□□寺謹牒 当国(衙)／一一	
53940-10	栄山寺	興福寺政所下文	1通	永保3年6月29日	興福寺政所 兜養寺使所	興福寺政所下 兜養寺使所／一一	
53940-11	栄山寺	興福寺政所下文	1通	永保3年11月10日	興福寺政所 栄山寺所司等	興福寺政所下 栄山寺所司等／一一	

目録番号	関連寺院	史料名	頁数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
53940-12	栄山寺	興福寺政所下文	1通	寛治2年9月2日	政所 栄山寺所司田堵等所	政所下 栄山寺所司田堵等所／――	
53940-13	栄山寺	大和国栄山寺牒	1通	康和4年2月15日	栄山寺 大和国（衙）	栄山寺牒 大和国（衙）／以牒	
53941	栄山寺	和州栄山寺撞鐘寸尺 覚	1枚	――	――	和州栄山寺撞鐘寸尺覚／以上	『栄山寺』参照
53942	栄山寺	和州栄山寺之図	1枚	（元禄）	――	――	裏面外題「和州栄山寺之図」。天竜持参か。『栄山寺』参照
53943	丹波円通寺	丹波国円通寺徳川家 光御朱印写	1通	慶安2年8月17日	――	御朱印写／可専仏事勤行者也	
53944	丹波円通寺	丹波国円通寺明智日 向守制札之写	1通	天正6年9月日	日向守判	明智日向守制札之写 禁制／仍如件	円通寺文書にあり。奥に「明智日向守光秀、天正之間此国に横行して、諸山の名山大地一字不残悉焼失仕しかとも、当山ひとり此制札を留て了守護を加へ待き」
53945	丹波円通寺	丹波国円通寺宛家一 判物	1通	天文22年6月11日	家一判	水上郡円通寺之事／仍状如件	円通寺文書に見えず
53946	丹波円通寺	丹州水谷円通英仲禅 師・牧翁禅師年譜	1綴	（近世）	――	丹州水谷円通英仲禅師年譜／抱座	足利尊氏四男英仲法俊。円通寺開山。円通寺文書の年譜と同文だが、円通寺文書は康暦二年の途中で後欠。本記は以後、応永二年まで。その後二世牧翁禅師年譜が続く
53947	丹波円通寺	円通寺牧翁性欽伝記	1綴	（近世）	――	師諱性欽姓藤氏／以一生曰掩大徳云乎	英仲法俊の弟子。近衛道嗣男
53948	丹波円通寺	円通寺由来	1綴	（近世）	――	通乎内者必／遂為之記	
53949	丹波円通寺	円通寺英仲法俊伝記	1綴	（近世）	――	師世姓源平城人／	
53950	丹波円通寺	丹波国円通寺之事	1通	元禄7年6月28日	――	丹波国水上郡井中村／行程二十三里	包紙「上 池上宝庵／同平之丞／同伊兵衛」

53951	大和円照寺	普門山円照大禪寺規矩	1巻	文化10年閏11月25日	園城寺一山大衆	宝龕刀者之事寛政七年十二月／無御恨様頼入候也	紐附箋「普門山円照寺縁起志卷」。奥書「普門山円照大禪寺之規矩一卷者、文智尼公主之手自所筆、禪室要須之教戒、当寺万代之龟鏡也、法子法糸永流伝件之旨趣、敢莫忘公主之素願矣／元禄二年十月十九日／太上天皇／御判」。本奥書「貞享四丁卯年冬弘成道日／住、普門山円照禪寺／大通文智至囑々々」
53952	近江水源寺	為円心禪祖請賜国師号表写	1通	元禄7年某月某日	臣僧某甲上表	為円心禪祖請賜国師号表／天威下情無任激切屏營之至誠惶誠恐頓首頓首謹言	53929～53994 白紙包紙あり
53953	近江水源寺	近衛良嗣御教書写	1通	応永元年12月29日	右中弁 水源寺長老	近江国柿御園内熊原村／依近衛大納言殿御気色執達如件	端裏書「良嗣公」。水源寺文書にあり
53954	近江水源寺	足利義満判物写	1通	応永2年3月5日	太政大臣源朝臣在判	近江国柿御園内熊原村事／右任近衛大納言家寄附同国水源寺領掌不可有相違之状如件	端書「鹿苑院殿義満公寺領之御判紙」
53955	永円寺	永円寺客殿之図	1枚	(近世)	—	永円寺客殿／—	
53956	延暦寺	延暦寺文書	1巻	—	—	—	
53956-1	延暦寺	天台法華宗年分縁起	1通	延暦25年正月3日	沙門最澄上表	天台法華宗年分縁起／伏深戰越謹言	延暦寺所藏天台法華宗年分縁起所収
53956-2	延暦寺	賀内裏所問定諸宗年分一十二人表	1通	延暦25年正月5日	少僧都伝燈大法師位勝虞ほか	賀内裏所問定諸宗年分一十二人表一首／誠惶誠懼謹言	延暦寺所藏天台法華宗年分縁起所収
53956-3	延暦寺	更加法華宗年分二人定諸宗度者数官符	1通	延暦25年正月26日	太政官 治部省	更加法華宗年分二人定諸宗度者数官符／太政官符治部省／符到奉行	延暦寺所藏天台法華宗年分縁起所収
53956-4	延暦寺	天台法華宗年分得度学生名帳	1通	自大同2年至于弘仁9年	—	天台法華宗年分得度学生名帳／弘仁十年々々分得度者	延暦寺文書にあり
53956-5	延暦寺	請先帝御願天台年分得度者随法華教為菩薩出家表	1通	弘仁9年5月21日	前入唐求法沙門天台宗頭最澄上表	請先帝御願天台年分得度者／謹言	延暦寺所藏天台法華宗年分縁起所収

目録番号	関連寺院	史料名	頁数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
53956-6	延暦寺	天台法華宗年分得度 学生式	1通	弘仁9年5月13日	前入唐求法沙門最澄	天台法華宗年分学生式一首／謹言	末尾に「天台法華宗年分縁起卷一」
53956-7	延暦寺	沙弥成典等連署勸進 疏	1通	天延2年閏10月21日	沙弥成典ほか	叡山延暦寺戒壇院／謹和南誥	青蓮院文書にあり。平安遺文未収
53956-8	延暦寺	僧円珍戒牒	1通	天長10年4月15日	受菩薩戒沙弥円珍	近江国比叡山延暦寺菩薩戒壇所／謹和南誥	
53957	延暦寺	官宣旨写	1通	寛永11年10月14日	左弁官 延暦寺	左弁官下延暦寺 応任日時令勤行根本中堂 雑事之事／寺宜承知依宣行之	白紙包紙あり
53958	延福寺・ 妙覚寺	延福寺鐘銘並序・妙 覚寺鐘銘並序	1通	応永8年閏正月 20日 長享2年3月	延福寺 園林寺	延福寺鐘銘並序 撰津国福原庄兵庫経嶋有 寺名延福寺／至法界衆生平等利益	識語「応永第八歴（大歳辛巳）閏正月日作 銘大施主敬白 法智・妙造」長享二年 （戊申）季春廿日從一位富子誌之 金龍寺」
53959	園林寺	園林寺昇進依頼状等	1通	亥8月	園林寺	口上之覚 今般其元様／偏奉願候以上	53959～53960 包紙「上」、口上之覚
53960	園林寺	園林寺昇進依頼状等	1通	（近世）	園林寺 一山大衆	尾州袖野願園林寺義 袖乃より金子皆上納	
53961	園城寺	園城寺ヨリ差出候写	1通	文化10年閏11月25日	実相院御門跡坊官中	宝龜力者之事、寛政七年十二月被復旧儀、 為長史宮御下知、園城寺力者可令勤役之旨 被仰出候、伝奏坊城中納言殿・奉行烏丸弁 殿、伝達如左、御葬送宝龜力者、近年漸連 綿大雲寺力者勤役候所、今度復旧儀為長史 宮御下知、園城寺力者出勤旨仰出候事／大 衆之議定実ニ以不得止事之旨無御恨様頼入 候也	包紙「園城寺より差出候写」
53962	園城寺	御凶事二付園城寺焼 香之事日記抜書	1冊	寛延3年・享保17 年・元文2年		／	表紙打付書「日記抜書」、寛延3年4月25 日～6月5日、享保17年9月4日、元文2 年5月10日～16日、午12月1日、未7月2 日～11日、8月（記事なし）
53963	園城寺	円満院門跡御使口上 之覚	1通	8月12日	円満院御門跡御使西坊法眼	御口上之覚 兼御機嫌能／右之段被仰入候 御事	白紙包紙あり
53964	岡寺	岡寺観音縁起	1冊	（近世）		抑此御戸帳の内に救世の利益を施し給ふ／	表紙打付書「岡寺観音縁起」。後半は「岡 寺小観音縁起」

53965	開口神社	大寺縁起	3卷	—	—	和泉州大鳥郡塩穴下条開口荘／祖弘法大師ハ弥勒菩薩の分身也	箱入。詞書のみ。絵の個所には空白を置く。奥書「大寺縁起卷上終」「大寺縁起卷中終」「大寺縁起卷下終」
53966	開口神社	口上覚	1冊	元治2年正月20日	甲斐山口町大寺遍照院慈秀他2人 御奉行所	口上覚 一拙僧共申合／御沙汰偏ニ奉願上候以上	53965～53977包紙「慶応元年／堺大寺之事」裏面「上」、端銘「明王院五大院より之御返答書」
53967	開口神社	口上覚	1冊	元治2年2月20日	御奉行所 他2人	口上覚 一当山之内明王院／右之通御座候以上	端銘「遍照院多開院より御返答書」
53968	開口神社	献上品等覚	1冊	万延2年2月	新在家丁浜	覚 一金五百疋 御菓子料／御調印被下候以上	端銘「万延二酉年二月回章写」
53969	開口神社	廻達	1冊	万延元年12月13日	—	廻達 一当月十日大寺／御承知書可被下候以上	端銘「万延元申年十二月回章写」
53970	開口神社	遍照院慈秀願書	1通	慶応元年6月20日	堺大寺々僧遍照院慈秀 近衛様御役人中様	乍恐奉歎願口上覚／御取計伏而奉歎願候以上	包紙「上」
53971	開口神社	向泉寺有存願書	1通	慶応元年6月20日	堺大寺綱寺惣代向泉寺有存 近衛様御役人中様	乍恐奉歎願口上之覚／御仁恵之段奉願上候以上	包紙「上」
53972	開口神社	五大院普応願書	1通	慶応元年6月20日	堺大寺五大院普応 近衛様御役人中様	乍恐御歎願奉申上候／有難仕合ニ奉存候以上	包紙「上」
53973	開口神社	遍照院慈秀願書	1通	慶応元年6月26日	堺大寺遍照院慈秀 近衛様御役人中様	奉差上御請一札之事／御請書奉差上所如件	
53974	開口神社	五大院普応請書	1通	慶応元年6月26日	堺大寺五大院普応 近衛様御役人中様	奉差上御請書之事／依御請一札如件	
53975	開口神社	明王院智鏡請書	1通	慶応元年6月26日	堺大寺明王院智鏡 近衛様御役人中様	奉差上御請書之事／御請書奉差上候以上	
53976	開口神社	明王院智鏡請書	1通	慶応元年6月20日	堺大寺明王院智鏡 近衛様御役人中様	乍恐奉御歎願候／有難仕合可奉存候以上	
53977	開口神社	堺大寺講中願書	1通	慶応元年6月20日	町代岩蔵他4人 近衛様御役人中様	乍恐謹而御歎願奉申上候／有難仕合可奉存候以上	継目裏黒印あり

目録番号	関連寺院	史料名	頁数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
53978	東福寺	海蔵院図	1枚	(近世)	—	現在境内除地坪数／—	
53979	妙心寺	海福院書状	1通	11月27日	海福院	御手帖忝披閱仕候／如斯御座候草々已上	
53980	妙心寺	海福院書状	1通	9月15日	清水玄蕃大允様 海福院	御手帖忝拜誦仕候御答迄如斯御座候／以上	
53981	妙心寺	海福院書状	1通	9月16日	中村主馬様 海福院	小簡拜呈愈御清寧／御座候草々已上	
53982	海臨寺	天神社内海臨寺境内之図	1枚	(近世)	—	—	
53983	堺向泉寺	方違宮縁起・向泉寺縁起	1巻	享保16年3月	堺向泉寺	夫拱河泉の界三国山は／御造営まします定例なり	堺向泉寺写。外題「享保十六年三月／方違縁起 堺向泉寺」、奥書「上巻方違宮縁起 庭田権中納言重孝卿御筆、下巻向泉寺縁起 千種参議左中将有敬卿御筆、各未被遂先途之時也、官位昇進之次第互廻毎年之譜略知之」御奥書「日野大納言資時卿御筆也」、大阪市立博物館所蔵『方違宮縁起』とは内容異なる
53984	広隆寺	広隆寺願書	1通	4月5日	広隆寺	一 聖德太子御装束之事／奉成御着服度存候事	白紙包紙あり
53985	広隆寺	二条康道書状	1通	4月8日	康道 関白殿	尊札過分存候然者太秦／義存候也恐々謹言	折紙
53986	広隆寺	聖德太子御遷座行列	1巻	享保5年4月12日	—	首夏十二日辰上刻／聖德太子新殿／跡押五 十風源五	53986-53987包紙「太秦寺記也、以兼郷令写之、／享保五年四月十二日／聖德太子御遷座記」巻物
53987	広隆寺	聖德太子御遷座記	1通	(享保5年4月12日)	—	聖德太子新殿御遷座／右御遷座作法大略如 斯	横帳
53988	讃岐善通寺	讃州善通寺玉泉院の事	1通	(享保17年)	—	旧記之抜書一 讃州善通寺／權僧正光歛自筆 二 記置申候以上	外題「旧記抜書 讃州善通寺玉泉院」

53994-7	清水寺	後陽成天皇繪旨写	1通	慶長18年3月7日	清水寺本願周上人	令参内／依天氣執達如件	
53994-6	清水寺	後陽成天皇繪旨写	1通	慶長2年11月12日	右中弁 清水寺玉門上人	勸願寺清水寺之内／天氣執達如件	『音羽山清水寺中世文書』113号
53994-5	清水寺	東大寺修南院御教書	1通	慶長7年12月1日	修南院奉行 光兼 清水寺本願御房	聽着絹衣／仍執達如件	
53994-4	清水寺	後陽成天皇繪旨写	1通	文祿3年4月21日	清水寺本願玉門上人	宜令参内／仍執達如件	『音羽山清水寺中世文書』112号
53994-3	清水寺	豊臣秀吉朱印状写	1通	天正17年10月14日	左少弁 清水寺成就院	清水寺本堂／修造可仕者也	『音羽山清水寺中世文書』77号
53994-2	清水寺	後奈良天皇繪旨写	1通	天文14年11月23日	本願清全上人	清水寺堂宇／以状	『音羽山清水寺中世文書』111号
53994-1	清水寺	後土御門天皇繪旨写	1通	文明14年9月13日	願阿上人	清水寺造宮之旨／以状	『音羽山清水寺中世文書』105号
53994	清水寺	清水寺古文書写（慶長18年3月7日）	1枚	—	—	—	包紙「清水寺書物之とめ」。1紙に7通の文書が写される。清水寺にあり。末柄豊・村井祐樹編『音羽山清水寺中世文書』参照
53993	銀閣寺	銀閣泉石一覽	1冊	明治28年	大都城一	後土御門院天皇御製／あらざる歟	版本
53992	久安寺	撰津国大沢山久安寺縁起（後欠）	1枚	—	—	撰津国大沢山久安寺縁起／仏法護持すと	写しかけ
53991	久安寺	撰津国大沢山久安寺縁起	1巻	（久安2年）	—	撰津国大沢山久安寺縁起／ほと／したまふ心なるへしとそ	53991～53992 包紙「第一縁起」、久安二年孟夏穀旦賢実上人本奥書あり。写。久安寺所蔵仮名縁起（正徳二年）と同じ。詞書のみ。空白は絵の部分か
53990	讚岐善通寺	讚岐守護細川顯氏書下写	1通	曆応4年7月20日	兵部少輔 尊日僧都御房	讚岐国善通寺別院弘法大師／可被抽祈禱誠精之状如件	善通寺文書にあり
53989	讚岐善通寺	内々御願申上候覚書	1通	寅11月	讚州誕生院門弟玉泉院基弁	内々御願申上候覚書 一享保十七年／一同難有可奉存候以上	外題「讚州善通寺玉泉院」

目録番号	関連寺院	史料名	頁数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
54006	寛永寺	日光山薬師堂供養覚書	1 綴	寛永13年	—	寛永十三丙子年三月五日 日光山／菩薩拾式人	54006～54007 白紙包紙あり
54005	寛永寺	額寸法之覚	1 通	(寛永13年)	—	額寸法之覚 一横壹丈三尺程 但縁共二／以上	日光薬師堂供養之例付
54004	寛永寺	覚書	1 通	年未詳 6月28日	松平紀伊守 柳原前大納言殿正親町前大納言殿	覚 一 東叡山中堂勅額／松野河内守江も申合候以上	54004、54005 包紙「柳原前大納言殿／正親町前大納言殿 松平紀伊守」
54003	寛永寺	覚書	1 通	(寛永13年)	—	覚 一 御願文之料紙／毎度例如斯／院承仕調進	日光薬師堂供養之例付
54002	寛永寺	小笠原長重他連署状	1 通	年未詳 7月13日	松平紀伊守殿 小笠原佐渡守長重他3名	一 筆令啓候今度東叡山／申入候恐々謹言	包紙「松平紀伊守殿 阿部豊後守／戸田山城守／土屋相模守／小笠原佐渡守」
54001	寛永寺	東叡山中堂供養二付	1 通	(寛永13年)	—	覚 一 御次第／御門跡御申候為念／申達候以上	折紙
54000	寛永寺	東叡山中堂供養日時	1 通	(寛永13年)	—	東叡山中堂供養／日時／致書出候以上	折紙
53999	寛永寺	東叡山中堂供養御声書	1 通	(寛永13年)	—	覚 一 今度東叡山中堂／日光之者ニ而勤々せ可申候／以上	53999～5401 包紙「書付 三通」折紙
53998	寛永寺	寛永十三年日光山薬師堂供養参向役者以下御下行帳	1 冊	寛永13年	—	参向 五拾石 大外記／合千弍百五拾石	表紙白紙、日光薬師堂供養之例付
53997	寛永寺	寛永十三年日光山薬師堂供養日時定陣儀并参向役者以下御下行帳	1 冊	慶安5年3月	出納大蔵少輔他2人	寛永十三年二月五日日光山／右各以留帳も書写処如件	表紙打付書「寛永十三年日光山薬師堂供養日時定陣儀并参向役者以下御下行帳」、日光薬師堂供養之例付
53996	清水寺	清水成就院願書覚書	1 枚	12月	清水寺成就院	覚書／一 清水寺依勅願所／奉願置候以上	包紙「清水成就院願書覚書」
53995	清水寺	清水寺別当職覚書	1 枚	(近世)	—	廿五日／関白 中院前内府／不可為証文と存候	折紙

54018	寛永寺	文 東叡山中堂供養呪願	1冊	元禄11年9月		天地人民物々品別／利益平等至誠無量	
54017	寛永寺	文 東叡山中堂供養御願	1冊	元禄11年9月3日		夫薬師如来者利益殊／皆是平等利益敬白	
54016	寛永寺	文 東叡山中堂供養呪願	1通	元禄11年9月		天地人民物々品別／利益平等至誠無量	
54015	寛永寺	文 東叡山中堂供養御願 文・同呪願文・新広義門院廿五回忌御願文・同諷誦	1卷	元禄11年9月3日・元禄11年9月3日・元禄14年7月5日・元禄14年7月5日		関東瑠璃殿供養御願文 夫薬師如来／所修如件敬白	
54014	寛永寺	文 東叡山中堂供養御願	1卷	元禄11年9月3日		夫薬師如来者利益殊勝／皆是平等利益敬白	
54013	寛永寺	文 東叡山中堂供養御願	1卷	元禄11年9月3日		天地人民物物品別／歡喜利益等至誠無量	
54012	寛永寺	文 東叡山中堂供養呪願	1通	元禄11年9月		天地人民物々品別／歡喜利益等至誠無量	包紙ウハ書「東叡山中堂供養／呪願文前大納言豊長卿作進／元禄十一年八月六日被仰出奉行輝光同十一日献之」
54011	寛永寺	文 東叡山中堂供養御願	1通	元禄11年9月3日		夫薬師如来者利益殊／皆是平等利益敬白	
54010	寛永寺	文 東叡山中堂供養御願	1通	元禄11年9月3日		夫薬師如来者利益殊／皆是平等利益敬白	54010・18の包紙あり。54010・54011で包紙一括、包紙ウハ書「東叡山中堂供養／御願文前大納言恒長卿作進／元禄十一年八月八日被仰出奉行輝光同十一日献之」
54009	寛永寺	法会役次第	1通	(寛永13年)		着座公卿／中山大納言／差次藏人	「日光薬師堂供養之例付」
54008	寛永寺	正親町前大納言・柳原前大納言連署状	1通	7月6日	正親町前大納言／柳原前大納言連署状 松平紀伊守殿	寛永之度日光山薬師堂／相添進之候以上	包紙「口上覚」
54007	寛永寺	日光薬師堂供養日時定陣儀	1通	寛永13年3月5日		寛永十三年三月五日／日光薬師堂／薬師堂供養	

目録番号	関連寺院	史料名	頁数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
54026-4	寛永寺	松平豊後守江達書写	1通	(寛延4年9月26日)	— (松平豊後守)	有徳院殿御仏殿勅額／宜有御沙汰候事	端書「同年九月廿六日松平豊後守之相達候切紙」
54026-3	寛永寺	御返答口上覚	1通	8月17日	松平豊後守殿	御返答口上覚東叡山／奉書預置候以上	
54026-2	寛永寺	松平右近将監・本多伯耆守・堀田相摸守書状	1通	8月10日	松平豊後守殿	一筆令啓候被害叡山／被申入候恐々謹言	
54026-1	寛永寺	松平豊後守口上覚	1通	寛延4年8月16日	松平豊後守 柳原大納言殿 広橋大納言殿	口上覚東叡山有徳院御仏殿／私方江之奉書入御披見候以状	端書「寛延四年」。54026統紙。包紙あり
54025	輪王寺	輪王寺御願永官旨之事	1通	永正17年後6月23日	右中弁 真言院住持御房	上野国新田庄世良田／天氣如此悉之以状	
54024	輪王寺	輪王寺宮御使靈山院慈泉依頼状	1通	9月	輪王寺宮御使靈山院慈泉口上写	天台宗僧徒官位権大僧都／宜御沙汰被為頼入候以上	端書「今度輪王寺宮永官旨御願口状之写」
54023	輪王寺	靈山院大僧都慈泉・真覚院大僧都最妙口上写	1通	正徳3年3月	靈山院大僧都慈泉・真覚院大僧都最妙	天台宗僧徒官位昇進／年中之宣旨写進上仕候	端書「正徳三年從大明院宮被遣候御口上写」
54022	輪王寺	靈山院願書	1通	9月	靈山院	成吉思召候、以上	端書「今度御願紙面之不審有之重而被出候口上」
54021	輪王寺	後柏原天皇官旨写	1通	永正17年後6月23日	右中弁 真言院住持御房	上野国新田庄世良田／天氣如此悉之以状	包紙ウハ書「世良田長楽寺永官旨写」
54020	輪王寺	北山鈔禁色雜袍事	1通	(近世)	—	北山鈔／禁色雜袍事／依有水官旨不申代官	54020-5包紙一括、包紙ウハ書「永官旨之事」
54019	寛永寺	東叡山中堂供養次第	1帖	元禄11年冬	(近衛基熙花押)	東叡山中堂供養次第／次公卿退出	基熙公奥書「此次第関東叡山中堂供養（九月三日）之時、左府依仰被作進、但於関東者事々作法以下有相違而如次第云々、猶追而可写之者也。元禄十一年冬（花押）」

目録番号	関連寺院	史料名	頁数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
54032	法蔵院カ	微妙高院殿忌日等書 付	1通	延宝4丙辰4月6日	—	近衛尚嗣公貴愛子／葬于海蔵院	好君。近衛尚嗣女、伏見官員致親王妃
54033	法蔵院カ	御歴代薨去年月及光 明心院殿微妙広院殿 之事	1通	(近世)	—	御歴代／—	近衛兼経から信尹までの忌日
54034	粉河寺	粉河寺文書写	1部	—	—	—	54035・54036・54037の写、一紙ごとニラ ベルを付し枝番とされているが省略
54035	粉河寺	粉河寺文書写	1部	—	—	—	17点の文書の影写。いずれも粉河寺文書に あり
54035-1	粉河寺	護良親王令旨案	1通	延元元年12月2日	右馬頭（花押写）	和泉国塩穴／以状	奥裏に「十一」とあり
54035-2	粉河寺	長岡藤孝・一色藤長 連署書状写	1通	6月20日	藤長（花押写） 藤孝（花押 写） 粉河寺惣分沙汰所御中	諸口被相催／恐々謹言	一紙に長岡藤孝・一色藤長連署書状、畠山 高政書状の二通を写す
54035-3	粉河寺	畠山高政書状写	1通	7月9日	高政（花押写） 粉河寺惣分沙汰所御中	此表急度可及行候／恐々謹言	一紙に長岡藤孝・一色藤長連署書状、畠山 高政書状の二通を写す
54035-4	粉河寺	將軍足利義昭御内書	1通	6月10日	粉河寺惣分沙汰所	諸口相催／可申也	「粉河寺文書」の原本は6月20日付、一紙 に足利義昭御内書、畠山秋高書状の二通を 写す
54035-5	粉河寺	畠山秋高書状写	1通	7月7日	秋高（花押写） 粉河寺年預	就御入洛／恐々謹言	一紙に足利義昭御内書、畠山秋高書状の二 通を写す
54035-6	粉河寺	貞直書状写	1通	12月24日	貞直（花押写） 粉河寺行人中	太上天皇一昨日／如件	奥裏に「一」とあり
54035-7	粉河寺	護良親王令旨案	1通	正月11日	左少将（花押写） 河寺行人等中	□十五日御用事／悉之	奥裏に「二」。上部欠損の文書を写す
54035-8	粉河寺	護良親王令旨案	1通	元弘3年正月10日	左少将（花押写） 河寺行人等中	馳参之由／如件	奥裏に「三」。上部欠損の文書を写す

54035-9	粉河寺	護良親王令旨案	1通	元弘3年2月5日	左少将（花押写） 粉河寺行人等中	召馳參致合戦之／悉之	奥裏に「四」とあり
54035-10	粉河寺	左衛門尉重朝奉書案	1通	元弘3年壬2月9日	左衛門尉重朝（花押写） 粉河寺方人々中	被召度々忠之至／執達如件	奥裏に「五」とあり
54035-11	粉河寺	左衛門尉重朝奉書案	1通	4月2日	左衛門尉（花押写） 粉河寺行人中	□六日於河内国／恐々謹言	奥裏に「六」とあり
54035-12	粉河寺	護良親王令旨案	1通	元弘3年4月18日	左少将（花押写） 左中將（花押写） 粉河寺行人中	紀伊国平田庄／悉之	奥裏に「七」とあり
54035-13	粉河寺	後醍醐天皇繪旨写	1通	延元元年7月18日	左中將（花押写） 粉河寺行人中	紀伊国井上新庄／以状	奥裏に「八」とあり
54035-14	粉河寺	護良親王令旨写	1通	延元元年11月22日	右馬頭（花押写） 粉河寺行人等中	尊氏直義以下／以状	奥裏に「九」とあり
54035-15	粉河寺	護良親王令旨写	1通	延元元年12月2日	右馬頭（花押写） 源国清（花押写） 粉河寺方衆御中	紀伊国平田庄／以状	奥裏に「十」とあり
54035-16	粉河寺	畠山国清軍勢催促状写	1通	建武3年10月2日	源国清（花押写） 粉河寺方衆御中	新田義貞并正成／仍執達如件	奥裏に「十三」とあり
54035-17	粉河寺	畠山国清軍勢催促状写	1通	建武3年10月7日	源国清（花押写） 粉河寺方衆御中	新田義貞并正成／仍執達如件	奥裏に「十二」とあり
54036	粉河寺	雑録	1卷	—	—	雑録／—	粉河寺旧記抜書。文書4通を引用
54036-1	粉河寺	天海書状写	1通	7月14日	大僧正（花押写） 彦坂九兵衛殿	其以来者不申通候／恐惶謹言	
54036-2	粉河寺	双巖院・仏乗坊連署状写	1通	元和9年極月8日	双巖院在判・仏乗坊在判 粉河衆徒中・御池坊	従大僧正様／恐々謹言	
54036-3	粉河寺	双巖院・竹林坊・最教院連署状写	1通	3月13日	双巖院在判・竹林坊在判・最教院在判 護光院	一筆申入候近々／恐惶謹言	

目録番号	関連寺院	史料名	員数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
54038-9	粉河寺	某下知状写	1通	元暦2年7月4日	 在御判	粉河寺領栗栖庄／之状如件	
54038-8	粉河寺	高階泰経書状写	1通	元暦2年7月3日	大藏卿泰経 美作中将	粉河領栗栖庄／恐々謹言	
54038-7	粉河寺	鎌倉殿御使下文写	1通	元暦2年7月1日	藤原在判・中原在判 塔等所 紀伊国名草郡栗栖庄公文田	鎌倉殿御使下／故下	
54038-6	粉河寺	太皇太后宮盛景奉書写	1通	元暦2年7月1日	太皇太后宮盛景	所令申給之粉河寺領／恐々謹言	
54038-5	粉河寺	因幡前司大江広元書状写	1通	元暦2年6月9日	典膳殿・近藤七殿 因幡前司	粉河寺所司訴申／恐々謹言	
54038-4	粉河寺	藤原公能起請文写	1通	永暦2年8月6日	正二位右大臣兼右近衛大 将藤原朝臣公能	起請／仍起請如件	
54038-3	粉河寺	鳥羽院庁下文写	1通	久安2年4月29日	院庁 紀伊国在庁官人等	院庁下紀伊国在庁官人等／故下	
54038-2	粉河寺	藤原公能寄進状写	1通	保延4年3月25日	正四位下左近衛権中将兼美 作介藤原朝臣公能	応寄栗栖庄於粉河寺／敬白	
54038-1	粉河寺	粉河寺観音靈驗記卷中	1卷	(近世)	 	 	
54038	粉河寺	徳大寺家栗栖庄庁宣	1卷		 	 	
54037	粉河寺	紀州粉河寺縁起	1冊	正徳3年2月	 	 	家熙公御写。奥書「以彼寺古本書写了、正徳三年二月上旬〔花押〕」
54036-4	粉河寺	彦坂光正書状写	1通	(近世前期)	彦九兵光正〔花押写〕 粉河御池様	一書令啓達候／恐々謹言	

54038-10	粉河寺	関東下知状写	1通	元久2年5月27日	遠江守平 紀伊国粉河寺所司等	下 紀伊国粉河寺所司等／下知如件	
54038-11	粉河寺	関東下知状写	1通	永仁6年8月10日	相模守平朝臣在判 平朝臣在判	紀伊国粉川寺住侶等并徳大寺前内大臣雜掌 申当国来栖庄事／依鎌倉殿仰下知如件	
54038-12	粉河寺	六波羅下知状写	1通	永仁6年9月24日	前上野介平朝臣在判・左近 将監平朝臣在判	紀伊国粉河寺住僧并徳大寺前内大臣家雜掌 申当国来栖庄事／可致沙汰之状如件	
54038-13	粉河寺	太政官符写	1通	正暦2年11月28日	—	太政官符 紀伊国司／符到奉行	
54039	粉河寺	粉河寺伽藍図	1卷	(近世)	—	—	
54040	金剛峯寺	高野山金剛峯寺へ御沙汰書	1通	5月	行政官 高野山金剛峯寺	—	写
54041	金剛峯寺	御所向撫物取次二付書付	1通	(近世)	—	高野山学侶中より／御座候御事	本文中で明和五年・安永二年の仰せにつき言及あり
54042	金剛峯寺	高野山仙台宿坊再建之願書	1通	文久4年5月16日	—	御由緒書ノ御控／—	写。54042・43で3枚一具。高野山仙台宿坊再建御願書二通
54043	金剛峯寺	高野山仙台宿坊再建之願書	1通	(近世)	—	奉内奏状事ノ忝存候事	写。54042・43で3枚一具
54044-1	金剛峯寺	高野山記	1通	—	—	高野山記／可秘々々云々	本奥書「于時一長者醍醐寺座主■法務前大僧正義堯(花押写)」、書写奥書「右此一巻者清光院持参、依基熙公仰令書写者也、寛文五年極月十三日 賀茂重豊 萱堂清光院持参三巻之内」
54044-2	金剛峯寺	高野山萱堂勸進帳	1通	—	沙門覚心(花押写)	勸進沙門某敬白／勸進之趣如件	奥書「右此一巻清光院持参也、依基熙公仰書写畢、寛文五年極月十三日 賀茂重豊 萱堂清光院持参三巻之内」
54044-3	金剛峯寺	高野山成仏院勸進帳	1通	—	—	勸進沙門某敬白／仍勸進所唱如斯	奥書「右一巻者清光院持参、依基熙公仰令書写者也、寛文五年極月十三日 賀茂重豊 萱堂清光院持参三巻之内」

目録番号	関連寺院	史料名	頁数	年月日	差出 宛所	書出／書止	備考
54050	金毘羅山 金光院	讃州金毘羅山金光院 之事	1通	(近世)	—	覚／被成下之由也	当門跡の末寺かどうか
54049	金光寺	洛陽金光寺略縁起	1冊	(近世)	—	金光寺略縁起市中山市屋道場／別巻記之	奥書「右一軸者作阿上人某記録起要語以乞予故応求令書畢。応永三年二月黃門藤」末尾に宝永二年後四月廿六日の繪旨写。玄哲上人を住持に
54048	金輪寺	神尾山金輪寺参詣記	1冊	閏8月4日	宮川村庄屋吉左エ門	金輪寺参詣之記／	
54047	金剛峯寺	勅願所深草山安養寺 成仏院刈萱堂靈玉日 録	1通	(近世)	—	—	重宝目録。刷り物。末尾に手書きで近衛信尹書状と進藤書状を書き込む
54046	金剛峯寺	募十方檀越資助請再 興本堂等勸化略縁起 萱堂深草山安養寺成仏院	1通	享保18年3月8日	後深草院御勸願所高野山刈	—	
54045	金剛峯寺	高野山萱堂記上包	1枚	寛文5年	—	—	54047-3の包紙、紙背は寛文五年大呂日賀茂重書状